



2021年12月9日

各位

スパークス・グループ株式会社
代表取締役社長 グループ CEO 阿部 修平
(コード8739 東証第一部)

「未来創生 2号ファンド」

小型 SAR 衛星開発の株式会社 QPS 研究所への投資実行

—36機の小型 SAR 衛星コンステレーションによる準リアルタイム地球観測の実現へ—

スパークス・グループ株式会社（以下、スパークスと表記）は、2018年7月に設立した「未来創生 2号ファンド」が、株式会社 QPS 研究所（本社：福岡県福岡市、代表取締役社長：大西俊輔。以下、QPS 研究所と表記）に対する追加投資（金額は非開示）を実行しましたので、お知らせいたします。QPS 研究所は今回の調達資金を活用し、一昨年12月に打ち上げた100Kg級の小型 SAR 衛星初号機「イザナギ」、今年1月に打ち上げた2号機「イザナミ」に続き、2022年中に3~6号機の打ち上げを計画、2025年以降に36機によるコンステレーションを実現させ、10分ごとの準リアルタイム地球観測によるデータ提供サービスを進める計画です。

■投資先企業の概要

QPS 研究所は、1995年からスタートした九州大学での小型衛星開発の技術を伝承し、「九州から宇宙へ」をスローガンに九州の地で宇宙産業を育てるべく、2005年に設立された九州大学発の宇宙工学ベンチャーです。

2014年のQSAT-EOSプロジェクトでの成功などを経て、2017年には「未来創生(1号)ファンド」などから23億円強の資金を調達、小型 SAR 衛星の開発を進め、2019年にはベンチャーで初めて内閣府の「衛星リモートセンシング装置使用許可」の認可を取得、同年12月に初号機「イザナギ」をインドの宇宙センターから打ち上げました。

2020年には「未来創生 2号ファンド」および既存投資家からの追加出資を受けて、今年の1月に2号機「イザナミ」をスペース X のファルコン 9 ロケットにてアメリカの射場から打ち上げ、3月には高精細な SAR 画像の取得成功をリリース致しました。

今回の資金調達により、来年2022年には新たに4機の SAR 衛星を打上げる予定であり、またスカパーJ SAT 社および日本工営社との戦略的業務提携により SAR 衛星から取得した画像データ販売ビジネスの商流も確立し、2025年以降には36機のコンステレーションにより、天候不問、24時間の準リアルタイム地球観測を実現し、防衛・防災、安全、環境、経済活動など幅広い分野へのソリューション提供を目指しています。

■「未来創生（1号）ファンド」及び「未来創生 2号ファンド」並びに「未来創生 3号ファンド」の概要

未来創生（1号）ファンドはスパークスを運営者とし、トヨタ自動車株式会社、株式会社三井住友銀行を加えた3社による総額約135億円の出資により、2015年11月より運用を開始しました。最終的には、上記3社を加えた計20社からの出資を受けました。「知能化技術」「ロボティクス」「水素社会実現に資する技術」を中核技術と位置づけ、それらの分野の革新技术を持つ企業、またはプロジェクトを対象に米国、英国、イスラエル、シンガポール、日本の約50社に投資しました。2018年下半期には、既存投資領域3分野に加え、新たに「電動化」、「新素材」を投資対象とした未来創生 2号ファンドの運用を開始しました。そして、2021年11月から未来創生 2号ファンドの5分野



に加えて、「カーボンニュートラル」を投資対象とした未来創生 3 号ファンドの運用を開始しました。2021 年 11 月末時点の運用資産残高は、1 号、2 号および 3 号をあわせて、1,028 億円となっています。

未来創生ファンドの投資実績：<https://mirai.sparx.co.jp/investment/>

- 本件に関するお問い合わせ先
スパークス・グループ株式会社 広報室
TEL : 03-6711-9100 / FAX : 03-6711-9101
pr_media@sparxgroup.com